

自主防災組織の災害訓練に関する研究

熊本大学 学生会員 ○篠崎祐也
正会員 北園芳人

1. 研究背景・目的

近年わが国の防災事業において、未曾有の大災害の発生等を原因に、ソフト対策（減災）が重要視されるようになってきた¹⁾。そのような情勢の中で、災害対応の緊迫感等を疑似体験する災害訓練を通して、災害発生前にいざという時の対処を検討・準備することで、災害対応業務の実践的な遂行能力を獲得することが期待されている。

今回、熊本県熊本市の黒髪4町内自主防災クラブの方々に災害訓練を行うことで、自主防災クラブ内の連絡や災害に対する初動対応が行えるかを確認すると共に、防災・減災意識を向上させることを目的とする。

2. 研究方法

まず黒髪4町内を回り、地震時に崩壊が予想される急斜面やブロック塀、空き家などの危険箇所を調査・撮影し、その位置を地図上に記入する。次に自主防災クラブの方の家の位置と、災害時に避難の援助が必要と予想される災害時要援護者宅の位置を記入する。作成した地図から、がけ崩れやブロック塀の崩壊といった被害や、通行不可能な道路など、訓練時ハザードの設定を行う。

訓練は、自主防災クラブの方に訓練の説明を行った後、一旦帰宅してもらい、その後、地震発生を想定した時刻になったら各々避難行動を行ってもらう。その際、ブロック塀の崩壊等による通行不可能な道路については、状況を記入した紙を貼ったカラーコーン（ハザード）などを設置し、状況確認とメモをしながら仮避難所まで避難を行ってもらう。災害時要援護者宅についても同様にする。そして、避難後は、避難経路、所要時間、メモした状況を白地図に書き込んでもらう。また、訓練の最後に初動対応に対する検証を自主防災クラブの方で行う。



図-1. 斜面と密集家屋



図-2. ブロック塀と細街路



図-3. 状況付与のカラーコーン

3. 訓練の設定

(1)実施日

平成 25 年 1 月 12 日 (土) 13:00~17:00

(2)震度の想定：6 弱

熊本市の「わが家の防災マニュアル」では、熊本市で想定される地震は震度 5 弱～6 強となっている²⁾。また、気象庁震度階級関連解説表では、震度 6 強で「補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる」となっており、今回の訓練ではブロック塀の一部が崩れると設定しているため、震度 6 弱とする³⁾。

(3)被害想定

地震による被害としては、がけ崩れ (2 箇所)、貯水池の擁壁の崩壊、ブロック塀・電柱の倒壊、住宅の火災を設定し、これらによる通行不可能な道路を設定する。

また、数人のけが人を設定し救助が必要な状況や、自主防災クラブの方が被災した状況も設定する。

なお、今回の訓練は自主防災組織に期待される初動対応をみるものなので、警察・消防などの機関は関わらないものとする⁴⁾。

(4)仮避難場所

黒髪 4 町内の本来の避難場所は「熊本市立桜山中学校」だが、今回は 4 町内自主防災クラブの方が会議等で通常使用している「老人憩の家」を仮避難場所とする。



図-4. 老人憩の家と防災倉庫

5. 参考文献

1)熊本市：「わが家の防災マニュアル」

http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/content/web/upload/file/bun_60889_21p01-27.pdf

2)岡山和生：「実践的な災害危機管理演習について」
財団法人 河川情報センター-p2

http://www.river.or.jp/01kenshuu/sympo/h17/img/report_05.pdf

3)気象庁震度階級関連解説表

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

4)消防庁「自主防災組織の手引き -コミュニティと安心・安全なまちづくり-」p12

http://www.fdma.go.jp/html/life/bousai/bousai_2304-all.pdf

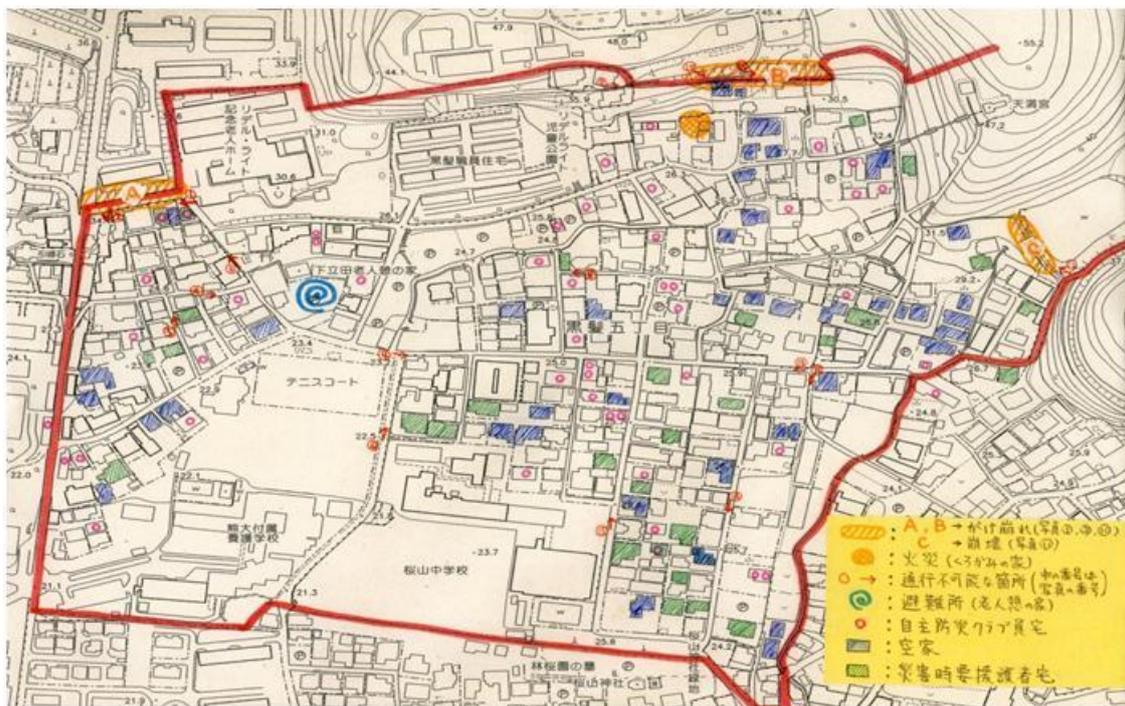


図-5. 黒髪 4 町目内地図